

Z会東大進学教室

高2 難関大英語 S

高2 難関大英語



# 1章

## 問題

### 【1】

A.

#### 解答・解説

- (1) d「自分が正しいと信じていることをやりなさい。」

Do で始まるため命令文である。Do の目的語として取れるのは名詞・名詞句・名詞節であるから、what (you believe) is right とするのが正解。a を選んで things の後に which の省略と考えた場合、things which (you believe) “are” right となるはずである。if や whether では、is の主語になる語句がなくなってしまう。

- (2) d「このレストランの食事は高いだけでなく味がひどすぎる。」

taste は形容詞を伴って第2文型を作りうる。また形容詞を修飾するために much は用いないため much bad の強調形である too much bad は不可。too bad を強調した形のみ much too bad なら可能。

○ besides …ing 「…は言うまでもなく」

- (3) b「社長に考えさせなければならない問題が依然としていくらか残っている。」

left の後に関係詞 which が省略されている。to consider に続けるためには使役動詞の make や have は不可。render は render O C = make O C として用いる他、第3文型として「～に与える、～を表現する」などの意味があるが、本問の場合、意味が通らない。get O to do で「Oに…させる」という意味になる。

- (4) c「彼の父は今年初めに車を修理してもらった。」

have は使役動詞であるが、目的語の後に過去分詞を続け、「～してもらう；～される」という意味になる場合、be は不要である。修理を行う人々を they とすると、一応 His father had them repair his car at the beginning of this year. とすることは可能である。

- (5) c「そこで私は、本当に青ざめ、目を赤くしている母を見つけた。私は母の腕の中に駆け寄った。」

S V O Cの形にするために very pale という形容詞を選ぶ。

B.

#### 解答・解説

- (1) least

「肉体の強健さを犠牲にして、知性だけを発達させることも同様に悪いことである。」

at least (少なくとも) としてしまうと、the intellect と the expense という2つの名詞が連続してしまい、これらをつなぐ接続詞が必要となる。at the expense of ～ 「～を犠牲にして」という熟語を思い出せばよい。また、全体としてはC V Sの構造となる。

- (2) which

「それはあなたが良心の命令に従って自分で決めるべき事柄で、私にはあなたに影響を

及ぼそうという気持ちはまったくない。」

which を疑問詞ととらえて名詞節を作ると考えると S V を伴う必要がある。また、形容詞節として according to which という‘前置詞+関係詞’をとらえてもその後には S V が必要となる。よって、which が不要。なお、according to ～には「①～によると ②～にしたがって (= in accordance with ～)」の2つの意味があることに注意。

(3) to

「日光の有益な効果が発見されて以来、厚着をしすぎることは医学的観点から言うとならなくなった。」

since の後に S V がいないため since は前置詞であるが、前置詞 since は接続詞 since と異なり「理由」を表す用法はなく「～以来」という意味になる。したがって、時制的に考えて has to はおかしく、現在完了形にすべきである。

(4) be

「映画監督がイリュージョンを創るために用いる基本技術の1つは、異なる時間に撮影されたシーンを1つの映画に組み込むというものだ。」

put ～ into …の～の部分が高いために後置されたもの(後置目的語)。to be put と受動態にしてしまうと、a single film scenes をひとかたまりの名詞句と考えざるをえないが、これは明らかにおかしい(a と scenes (複数形) が矛盾)。

(5) improper

「我々が遠い過去を解釈する上での最も大きな変化はこの20年の間で生じた。というのは、年代設定の新たな仕組みや、有形遺跡の新たな発見や、証拠史料についての再評価が次から次へと生じたために、これまでの調査が急速に時代遅れのものとなったからだ。」

remain C (Cのまま)と勘違いしないように。remains が動詞だとすれば、主語は schemes や discoveries になるだろうが、いずれも複数形であるため remain となるはずである。new schemes, new discoveries, new evaluations と名詞が列挙されていることから、remains は名詞で「遺跡」と考えられる。

C.

**解答** .....

c, d

**解説** .....

- a 日本語では「～について議論する」と言うが、discuss は他動詞であるため about は不要。  
「コーヒーを飲みながらその問題について議論しよう。」
- b 日本語では「～に従う」と言うが、obey は他動詞であるため to は不要。  
「先生の言うことに従うべきです。」
- c attend は「～に出席する」という場合には他動詞であるため前置詞 to は不要であるが、「～に注意する」という場合には自動詞であり、attend to ～となる。  
「私が言っていることをしっかり聞いていますか。」
  - attend 「～に出席する」
  - attend to ～ 「～に注意する；～の世話をする」
  - attend on ～ 「《やや古い》～に仕える；～に付き添う」

d 日本語では「～と結婚する」と言うが, marry は他動詞であるため marry with ～ではなく marry ～が正しい。もっとも, 過去分詞の married を用いる場合には, get married to ～となる。よって, d は正しい。

「ローガンはエミリーと結婚した。」 = Logan married Emily.

e 日本語では「～に近づく」と言うが, approach は他動詞であるため to は不要。

「その猫は音もなくテーブルに近づいた。」

f 日本語では「～に似ている」と言うが, resemble は他動詞であるため with は不要。

「あなたはお母さんに似ています。」

## 【2】

### 解答・解説

A.

(1) a 「その塔は, 10 年前に建てられたが, 片方に傾き始めた。」

has started は現在完了であるから「今から 10 年前に」建てられたもの。

○ ~ ago 「今から～前に」

○ ~ before 「(過去の) ある時点から～前に」

○ decade 「10 年」

○ lean 「傾く」

(2) a 「ステイブが今何しているか知ってる?」「ああ, 20 分ほど前に彼を見た時には図書館で本を読んでいたよ。」

時制の問題。「20 分ほど前に見たときに」と過去の一時点を表しているため, 現在完了や現在進行形などは使えない。

(3) b 「イーサンがそのパソコンを使っているので, もう 2, 3 分待たなければならないでしょう。」

since は‘過去の起点’を表す「～以来」の意味ではなく, ‘既知の理由’を表している。従って現在進行形の b がよい。a の現在形では, ‘現在の進行’ではなく‘現在の習慣’を表すことになる。

cf. He goes to school. = He is a student.

(彼は普段は学校に行っている。 = 彼は学生である。)

(4) d

X 「あなたのお姉さんがヴェネツィア旅行からもうすぐ帰ってくるそうね。」

Y 「いえいえ, もう 2 週間前に帰ってきました。もうここにありますよ。」

No, no. と言っている以上は, 逆の内容の質問をしたことになる。つまり「2 週間前に帰ってきた」とは逆の内容, 「まだ帰ってきていない」という意味を持つ d が正解となる。

(5) a 「私は 3 日後に東京を去ります。つまり, 私たちには出発まで 3 日しか残っていません。」

in ~ days は「～日以内に」という意味ではなく「～日後に」という意味であることに注意。

○ no more than ~ = only ~ 「～だけ」



- not more than ~ = at most ~ 「多くとも～」
  - no less than ~ = as many [much] as ~ 「～も」
  - not less than ~ = at least ~ 「少なくとも～」
  - only a little ~ 「ごく少量の～」  
cf. not a little ~ = quite a little ~ (かなり大量の～)
  - only a few ~ 「ごく少数の～」  
cf. not a few ~ = quite a few ~ (かなり多数の～)
- (6) **b** 「工場の(生産)ラインが少なくとも3時間停止しなければならなかった。というのは誰かがローラーの清浄をし忘れてしまったからであった。」  
forget to do (…し忘れる) と forget …ing (…したことを忘れる) に気を取られて時制という観点を忘れないように。また had to forget では、意味が通らない。

B.

- (1) At (this time tomorrow we will be watching a soccer) game at the National Stadium.  
○ 「明日の今頃は」 at [about] this time tomorrow  
will be watching は未来進行形であるが、「このままいくと～になる」という成り行きを表すことがある。
- (2) When I returned to the park, (I found that the man had already disappeared).  
「公園に戻ってきた時に私が発見した」と考え、「すでにその男は姿を消していた」という事実を過去完了で表す。
- (3) In Hokkaido, we (will have several feet of snow on the ground by the time Christmas comes).  
「SがVするまでには」は by the time S V で表すが、これは時の副詞節であるから節内の動詞を現在形で表すことに注意。
- (4) I felt uncomfortable and (was about to leave when she grabbed me by the) arm.  
was about to do (,) when S V (…しようとしたとそのとき S V) の形式。grab me by the arm は ‘動詞 + 人 + 前置詞 + the + 場所’ の構文である。  
cf. He pulled me by the sleeve. (彼は私の袖を引っ張った。)  
She looked me in the face. (彼女は私の顔を見た。)  
He patted me on the shoulder. (彼は私の肩を叩いた。)

C.

- (1) I have been [lived] in New York for three years.  
‘現在までの継続(・結果・経験・完了)’は現在完了形で表す。
- (2) I lived in New York for three years.  
過去完了形にしてしまった人には反省を促す。過去完了形は過去のある時点を基準とした時制であるため、今から考えて「昔3年住んでいた」というのは、あくまで過去時制の範疇に入る。

【3】

解答・解説

(1) ×, ×, a

「彼は1週間につき2日、自転車で学校に行く。」

通学のように本来の目的で行う‘習慣的行為’を表す場合は無冠詞になる。手段を表す場合には by + 無冠詞となる。two days a week の a は「～につき (= per)」の意味を表す。

(2) ×

「その赤ちゃんの顔じゅうに卵がついていますよ。」

an egg では普通名詞として卵1個を指すが、ゆで卵のかげらなどがついているという状況では、不可算名詞である物質名詞 egg となるため冠詞は不要。

(3) an, a, the

「およそ1時間前にジョージは言った。『ここに来て1年になるけど、日本人が本当はどう感じているか理解できないよ』と。」

hour は [áʊə] と母音で始まるが、year は [jíə] という子音で始まるため、不定冠詞が異なることに注意。

the Japanese = Japanese people で、単に Japanese だと「日本語」となることが多い(ただし、無冠詞でも許容可とするネイティブもいる)。

(4) ×, a, the

「まずはじめに、『はい』と答えた人たちの意見から見てみよう。」

first of all (まずはじめに) は定型表現のため the はつけない。take a look at ~ (～を見る) も同様。opinions は、of 以下の限定がついているので the をつける。

(5) The, ×

「2の平方根は無理数です。」

square root には of 以下の限定があるため the をつける。two は「2」の意味であるから無冠詞。

(6) The, the, the

「その青い花は2つのうちで美しいほうだ。」

この発言がなされた状況として2本の花があることが前提となっているため、主語の flower には the をつける。また、2者を比較する場合には原則として‘the + 比較級 + of the two’の形となる。

(7) the, ×, a, a

「子供の頃、私はウイーンに何度も訪れました。」

○ Vienna は固有名詞(地名)であり the をつけない。

○ many + 複数形 = many + a + 単数形

Ex. Many boys like soccer. = Many a boy likes soccer.

○ as a child は「子供の頃」という意味。

(8) ×, ×

「改善の余地がある。」

room は「部屋」という普通名詞ではなく「余地；空間」という抽象名詞のため無冠詞にする。improvement (改良；改善) も、いまだ特定しているとは言い難いため無冠詞でよい。

(9) the

「黒い猫が近寄ってきて、私の頬を舐めた。」

He caught my arm. = He caught me by the arm. などのように‘動詞+人+前置詞+the +場所’となる構文がある。前者は「私の腕」に焦点があるのに対して、後者は「まず私をつかむ」ことに焦点が置かれ、その後に場所を付け加えている。

(10) a, ×, a, ×, a [×], the, ×, the, the

「カップとソーサーを用いて紅茶を飲む際には正しいマナーがあります。テーブルに座っている場合に紅茶を頂く正しいマナーは、ティーカップだけを持ち上げて、飲む度ごとにそれをソーサーの上に戻すというものです。」

There is 構文では「ある1つのマナーがある」と述べているから a がつく。「紅茶〔コーヒー〕を飲む」は drink coffee [tea] でよい。cup and saucer は2つで1セットになっているので初めに a をつけるだけでよい。

e.g. the bread and butter (バターつきパン)

a needle and thread (糸のついた針)

at table という表現もあるが at a table でもよい。raise the teacup, the saucer に the がつくのは、いずれもすでに特定されているため。

#### 【4】

A.

全訳

great と large は、ほとんど同じ意味に理解される。しかしながら、前者が感情的な言葉であるのに対し、後者はそうではない。もし、「私の部屋に大きな (large) テーブルがあった」と言った場合には、私は単に事実を述べているが、「私の部屋に大きな (great) テーブルがあった」と言った場合には、私は驚きや苛立たしさを表している。

B.

全訳

作家は我々が学ぶのに適した人々である。なぜなら作家がどのように仕事をし、なぜ若者のために本を書くことにしたのかについてを、彼らは人に語るができるからである。作家が自分について書いたものを読んだ後、彼らの興味、経験、信念がどのように彼らの書く物語に反映されているかを知ることができる。自分ととても良く似た家庭や地域社会で成長した作家も中にはいることを知って、あなたは驚くかもしれない。

C.

全訳

もし良い社会人になろうと思うなら、あなたが学ばなければならないのは、確かに隣人の

多くのことは好きではなく、そのうちの何人かとはとうてい1つ屋根の下に住むことができ  
そうもないほど違っているだろうけれども、その人達を傷つけたり、あるいはその人達に個  
人的に失礼な態度をとる少しの権利さえも与えられてはいないということである。

D.

**全訳**

徳川時代には、外国人が日本を訪れることは許されていなかったし、日本人が外国を訪れることも許されていなかった。日本から外国へ航海できるほど大きな船を造ることは、法に反してさえいた。

E.

**全訳**

私の母は、解放された婦人があるべき姿について父が描いた、理想の女性の象徴であった。優しく善良な母の両親は進歩的な考えを持っていた。彼らは、ある行動方針と別の行動方針との間で選択を迫られた時は常に、社会のしきたりに関する知識よりむしろ、自分の良心に従うべきだということを信じるように母を育てた。母は成長して、まさに彼女の両親が望んでいたように、活発で、積極的で、寛大で、また勇気のある人になった。だが、母のその母が昔そうであったように、母もまた強情であった。そして、非常に利口な若い人達にはよくあることだが、母は成長すると、年長の人達の方が自分自身と同じ世代の人達よりもおもしろい仲間であると思うようになった。

## 【5】

**ポイント**

本問は説明問題と和訳問題に焦点を当てた出題となっている。該当箇所だけではなく、本文の流れを意識した答案を作成することを心がける必要がある。このような記述式の問題は、国公立大の2次試験では典型的な出題なので、本問を通じてしっかりと取り組み方を学んでほしい。

**解答**

- (1) 科学技術が専門的になるほど私たちは専門家に頼らざるを得ないが、専門家は科学技術を客観視できないから。(50字)
- (2) 科学技術革命が起こった最近の20年足らずの期間。(23字)
- (3) 「全訳」の下線部㉓参照。
- (4) 「全訳」の下線部㉔参照。
- (5) 農場で機械を使うことで、土地から切り離されること。(25字)

**別解** 愛着のあった農地を都会からの土地投機家に売ること。(25字)

**解説**

- (1) 「現代科学技術の主要な問題はそれがあまりに専門的であることだ」と筆者が考える根拠を求められている。ℓ. 1～4で「科学技術が非常に専門的になればなるほど専門家に頼らざるを得ないが、専門家というのは科学技術を一步引いて見たり批評したりできない」とあるから、ここをまとめて答えればよい。字数制限があるので、ℓ. 3～4の But the experts … or criticize it. の部分を要約する以外にも、この内容を一言で述べている直後

の文 They are the exponents of technology. を用いることもできる。

- (2) this time と指示形容詞 this があるので、まずは前文から探すことになる。すると 0.9 ~ 11 に I am speaking now not of ~, but more precisely of ... the past twenty years. とある。not A but B で「AではなくB」という意味。本文では speak (now) not of ~ but (more precisely) of ... (~ではなく...のことにに関して述べている) と speak 以下の of が並列されている。この場合にはBに焦点が当たっているので、this time とは but に続く of 以下の the technological revolution that has taken place in little more than the past twenty years を指す。したがってこの部分をまとめて解答すればよい。this time と‘時’の内容を問われているので、「~の時期；~間」のように最後をまとめること。‘little more than + 数詞’は「~そこそこの；~にすぎない」の意味。

Ex. An outbreak of scarlet fever had taken the nine-year-old twins in *little more than* a week. (しろう紅熱の急激な発生により、その9歳の双子は1週間弱で亡くなってしまった。)

cf. If you've been asked for an interview you are probably on a short list of *no more than* six. (もしあなたが面接に呼ばれたのなら、おそらくあなたの名前がわずか6人のリストに載ったのだろう。)

(3)

◇ the progress  
s { of the past two centuries,  
and  
still more of the past two millennia,  
seems to have gone at a mere snail's pace <by comparison>  
v

- still more ~ : still [much] more ~ で「~はなおさら」の意味。

Ex. She is famous abroad, *much more* in Japan.

(彼女は外国で有名だが、日本ではなおさら有名だ。)

- seems to have gone ... : ‘seem to have + 過去分詞’で「…したように見える」という意味。‘現在’ではなく‘過去’のことにに関して述べられていることに注意する。

Ex. The virus *seems to have attacked* his throat.

(ウイルスによって彼ののどはやられたようだ。)

- at a mere snail's pace : snail は「カタツムリ」の意味で、at a snail's pace は直訳すれば「カタツムリのペースで」となる。ここでは「カタツムリのようにゆっくりと進む」といった意味である。

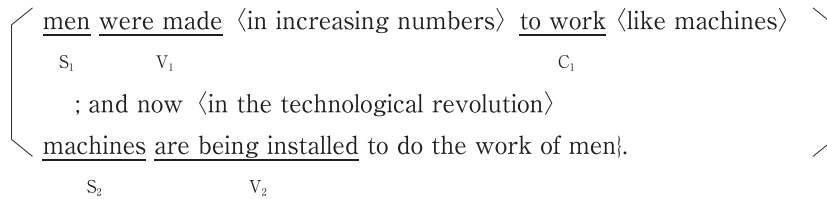
- by comparison : by comparison with ~ (~と比較して) の形でよく使用される。ここでは with ~ の部分が文脈上 the progress of the past twenty years であり、文脈上明白だと考えられたために、ここでは省略されている。

Ex. Agricultural productivity remained low *by comparison with* advanced countries like the United States.

(アメリカのような先進国と比べると、農業生産性は依然として低いまだ。)

(4)

◇ It is ironical {that <in the industrial revolution>



○主節は It is ironical that … の構文。that の内容は文末までである。訳し方としては  
①「…であるのは皮肉なことだ」, ②「皮肉にも…である」の2通りがあるが、今回のように that 以下が長い場合には後者を選択した方がよい。この構文は文修飾の副詞を用いて Ironically, … で表すこともできる。

cf. *It was natural* that they failed in their business. = *Naturally* they failed in their business. (当然のことながら、彼らは事業に失敗した。)

○ men were made to work : 使役動詞が受動態で使用される場合には、目的格補語には動詞の原形ではなく、to 不定詞の形がくることに注意。

Ex. The teacher made him *stand* by the window. (先生は彼を窓のそばに立たせた。)

→ He was made *to stand* by the window. (彼は窓のそばに立たされた。)

(5) 「都市がその貪欲な触手を地方へ伸ばすのを助けている」とは具体的に何のことに關して述べているのであろうか。第4段落冒頭にある「機械化による合理化が地方へ広がるのが特に心配だ」という文が下線部と同内容になっていることに気づいただろうか。この時点で「貪欲な触手」とは「機械化による合理化」だということを理解したい。次に「機械化による合理化」とはどういうことか、それが具体的に述べられている部分を探す。するとℓ.35 ~ 37 に Then they were unwilling to sell … their precious heritage to speculators ~. (彼らは農地を都会からの土地投機家に売る気にはならなかった。) とある。これは過去 (= in the past) のことであるので、裏を返せば、「現在は都会からの土地投機家に農地を売ってしまっている。」ということである。したがって、具体例の1つ目はこの部分をまとめて答える。もう1つはℓ.37 ~ 38 の from the time they yielded to the temptation to use machines on their farms, with more “efficient” farming methods, they found themselves cut off from the soil (より効率的な農場経営方法にならい機械を自分たちの農場で使用したいという誘惑に屈した時から、彼らは土地と切り離された) の部分である。2つのうちどちらか自分がまとめやすい方を答えればよい。

注

ℓ. 3 ◇ rely on ~ 「~に頼る」

◇ … have committed themselves to technology : commit oneself to ~ で「~に没頭する」の意味。

Ex. When I am in the car I am competing professionally and I *commit myself to* the job. (車に乗っている時、私はプロとして勝負しているのであり、その仕事に没頭するのです。)

ℓ. 7 ◇ the picture … is far from reassuring : far from ~ で「少しも~でない」の意味。

直訳すれば「～からはほど遠い」ということからこの意味が出てくる。

Ex. Research on the matter is *far from* conclusive.

(その件に関する調査は少しも決定的なものではなかった。)

ℓ. 14 ◇ alter *vt.* 「～を変える」

◇ fundamentally *adv.* 「根本的に」

ℓ. 18 ◇ livelihood *n.* 「暮らし」

◇ rationalization *n.* 「合理化」 *cf.* rationalize *vt.* (～を合理化する)

ℓ. 19 ◇ sophisticated *adj.* 「洗練された；精巧な」

ℓ. 33 ◇ the farmers were in close touch with the soil : in touch with ～ で「～と接触して〔連絡をとって〕」の意味。

Ex. If you don't get any job, get *in touch with* your local councillor.

(もし全然仕事が見つからないようならば、地元の議員に連絡してみなよ。)

ℓ. 36 ◇ precious *adj.* 「貴重な」

ℓ. 37 ◇ they yielded to the temptation to use machines on their farms : yield to ～ で「～に屈する (= surrender to ～)」の意味。

Ex. I *yielded to* an impulse. (私は衝動に屈した。)

ℓ. 38 ◇ efficient *adj.* 「効率的な」

#### 全訳

現代科学技術の主要な問題は、それがあまりに専門的であることだと私は考える。それが非常に専門的になればなるほど、私たちはそれを理解し、調べたりすることがいっそうできなくなる。したがって私たちはよりいっそう専門家に頼らなければならなくなるのである。しかし、専門家というのは職業として科学技術に深く関わっている人々なので、そこから一歩引いて見ることも、それを批評することもなかなかできない。専門家というのは科学技術の擁護者なのだ。しかし、私たち一般の人々が直面している問題は、私たちが科学技術と深く関わるべきかどうかということなのだ。私たちはそれを専門家のようにすべてを複雑かつ詳細に考えるのではなく、もっと単純に全体の輪郭を考えなくてはならない。このような輪郭から浮かび上がってくる構図は、とても私たちを安心させるようなものではない。

今ここで私が述べていることは、過去 200 年間私たちと共にあった産業革命のことではなく、より正確にはこの 20 年足らずに起こった科学技術革命のことに関してである。この期間、世界は科学と科学技術に関して、あまりにも速く先に進んでしまったので、◎それと比較すると、過去 200 年の、ましてや過去 2000 年の進歩が、カタツムリのようにゆっくりと進んだように思える。私たちの生活のほとんどあらゆる面が私たちが実感する以上に根本的に変わってしまった。私たちは自然からも、人間の伝統からも、そして私たち自身からもだんだんと切り離されてきた。それは考えても恐ろしいことだ。

そういった面があまりにも多いので、どこから始めるべきかほとんどわからないくらいである。1つの大変現実的な面は、それが多くの人々の生活に影響を与えるからそう言うのであるが、それは「合理化」と呼ばれるものである。これは鉄道や工場において精巧な機械を使い、多くの人々の仕事をさせることである。そのような機械が「合理化」の名の下に使われる時、まるで人の代わりに機械を使うことの方がより合理的のようであるが、多くの人々



が職を失う。その結果、今日の世界の、特に西欧先進諸国の共通現象が、大規模な失業だということを理解する。④皮肉なことだが、産業革命においてはますます多くの人が機械のように働かされたのに、現在の科学技術革命においては、機械が人々の仕事をするために導入されつつある。したがって、多くの人々が仕事を失い、稼いでもいない給与を求めて国家に依存するのである。同様に皮肉なことであるが、ますます多くの女性が、ウーマンリブという名の下に、家庭の外に仕事を求めている。

私が特に危険だと感じていることは、この機械による「合理化」が地方にまで広がることである。今日農場におけるますます多くの仕事が機械でなされ、農場で必要とされる働き手の数はますます少なくなっている。そういうわけで、ますます多くの人が地方を離れ都会に向かい、都会がその貪欲な触手を地方へと伸ばす手助けをしているのである。過去においては、仕事を代わりにやってくれる機械がなかった時には、農民は土と密接に触れ合っていた。仕事は大変だったが、それは自然で、彼らはその仕事を楽しむことができた。季節の変化に応じて大地のあらゆる状態を感じとることができたのである。そして彼らは土壌を愛していた。そういうわけで、彼らは自分たちの貴重な遺産の一部でさえも、都会からやって来た土地投機家に売る気にはならなかったのである。しかし、もっと「効率的な」農法で自分の農場で機械を使いたいという誘惑に負けた時から、農民は土地から切り離されてしまったのである。

## 【6】

### 解答・解説

(1) on 「服に費やせるお金は毎月いくらぐらいありますか。」

spend は「お金を費やす」という意味の場合、on は‘使う対象’を示し、for では‘目的’を示し、in では‘過程’が強調される。

(2) to 「大変驚いたことに、母がビューティーコンテストで優勝した。」

‘to one’s + 感情名詞’で「～したことはない」という意味を表す。

Ex. To my great disappointment, we had to cancel the plan.

(私が大変落胆したことに、その計画をキャンセルしなければならなかった。)

(3) for 「車の新しいタイヤを買うために私たちは車用品店に行きました。」

buy  $O_1$   $O_2$  = buy  $O_2$  for  $O_1$  になることは基本事項であるが、 $O_1$  が人ではなく物を指す場合には buy  $O_2$  for  $O_1$  の形しか使えない。

(4) to 「人類ははまだエネルギー危機への恒久的解決策を考案できていません。」

○ solution to ~ 「～に対する解決策」

(5) for 「その会社で以前働いていた人を誰か知っていますか。」

work for ~ は‘勤務先’を表す表現。

Ex. Who do you work for? (勤め先はどちらですか。)

(6) for 「ヒトクローンに賛成している科学者はほとんどいないように思われる。」

for には「～に賛成して」という意味がある。反意語は against。

(7) on 「月曜日の朝に早起するのはとても大変です。」

in the morning と言うが、特定の朝を言う時には on になる。



(8) to 「そのリズムに合わせて踊りましょう。」

○ to 「～に合わせて」

## 【7】

### 解答・解説

(1) A politician should work in order to provide a wide variety of services to meet the needs of the community.

(2) 'Senpai' is a Japanese word that has no counterpart in English or other European languages.

○ counterpart 「(～に) 対応 [相当] するもの」

(3) Kendama is said to have originated in Japan, though similar games are played in other countries.

○ originate 「起こる；生じる」

(4) I called the hospital and they told me my father would be discharged next week at the earliest.

○ discharge 「～を退院させる」

○ at the earliest 「早くて」

(5) Changes in Asian economies are relevant to the entire world, especially to Japan.

○ relevant 「関連がある」

○ entire 「全体の」

## 【8】

### 解答

(1) thick [rich]

(2) strong

(3) thick [dense]

(4) thick [dark ; deep]

(5) heavy

(6) tall

(7) high

(8) high

(9) expensive [high-priced ; costly]

(10) sweet

(11) loose [lú:s]

(12) sweet [honeyed ; soft]

### 解説

日本語と英語とは1対1の対応をしない場合が多いので、1つ1つ正確に覚える必要がある。

例えば、「濃い」という日本語に当たる英語としては、「液体・気体が厚い層を成したり、髪などが密集している状態」なら thick, ただし、「ひげが濃い」場合には heavy を用いるのがより一般的。

「コーヒー・茶などの液体の濃度が高い」「酒などが強い」という場合は strong, 「密度が高く、隙間なく存在するために見通せない状態」であれば dense, また、「色が濃い」という場合は deep ; dark となるなど、様々な形容詞に対応する。

## 2章

### 問題

【1】

A.

### 解答

b

### 解説

この英文では単独の information ではなく、information network という合成語が1つの普通名詞となっているため不定冠詞をつける。

a Thank you for giving me so much useful advice. とする。

「たくさんの有用なアドバイスを頂きありがとうございます。」

b 正解。「私の先生はツイッターを情報ネットワークとして説明しました。」

c The patient will eventually need equipment to supply oxygen. とする。

「その患者はいずれ酸素を供給する器具が必要となるでしょう。」

d Do not operate heavy machinery while taking this medication. とする。any pieces of の場合も、machinery は複数形にしない。また、この英文の場合、複数の重機を考える必要もないため。単に heavy machinery でよい。

「この薬の服用中は重機の使用はお控えください。」

B.

### 解答・解説

(1) What (line of work is your mother in)?

トム「あなたのお母さんはどんな仕事をしていますか？」

リリー「証券会社で働いています。」

line には「職業；商売」という意味がある。

(2) (That used to be the case a long time) ago.

父「あなたの年齢の頃は、もっと一生懸命勉強していたよ。」

娘「昔はそうだったんでしょうね。」

通例 the case の形で「真実、真相」の意味となる場合がある。

Ex. As is often the case with him, he is late.

(彼にはよくあることだが、遅刻している。)

(3) (It is none of your business), Mom.

母「あなたの集めたマンガ本売っちゃいなさいよ。」

息子「お母さんには関係ないよ。」

business には「務め；本分」という意味がある。

○ It's none of your business. = It's no business of yours. は「あなたには関係ない、口出しするな」という強い表現。

(4) The statesman is said (to be on friendly terms with gangsters).

「その政治家は暴力団と友好的な関係にあると言われている。」

terms (複数形) には「付き合い；間柄」という意味がある。

Ex. I am on speaking terms with him. (彼とは話をするような間柄だ。)

(5) I love sleeping, but the (trouble is I cannot study while sleeping).

「私は睡眠が大好きなのだが、寝ている時には勉強ができないのが困りものだ。」

○ The trouble is (that) S V. 「困ったことにSはVである。」

他にも、The fact is that S V. (実際にはSがVである。), The result is (that) S V. (その結果、SはVである。) などがある。

C.

**解答・解説**

a herd of cattle (牛の群れ) のように集合体を表す表現をまとめておく。

○ a band of robbers 「盗賊の群れ」

○ a bunch of flowers 「花束」

○ a flock of sheep 「羊の群れ」

○ a gang of roughts 「暴力団」

○ a herd of cattle 「牛の群れ」

○ a pack of wolves 「オオカミの群れ」

○ a pride of lions 「ライオンの群れ」

○ a school of fish 「魚の群れ」

(1) bees 「学校帰りに蜂の大群に襲われた。」

○ swarm 「(ハチや昆虫などの) 群れ」

(2) deer 「その公園では鹿に餌をやることができる。」

○ herd 「(牛, 象, 鹿などの) 群れ」

(3) fish 「サンゴ礁には小さな魚の群れが棲んでいます。」

○ shoal 「(魚の) 群れ」

school とも言う。

○ coral reef 「さんご礁」

(4) ants 「今日、昆虫の死骸を見つけた。すると蟻の大群が窓から入ってきてそれを巣へと運ぼうとした。」

○ troop 「(移動する人, 猿, 蟻の) 群れ」

【2】

A.

**解答・解説**

(1) **b** 「スイスでは何語が話されていますか。」

発言者がスイス人である場合 we でもよいだろうが、状況からして海外の人がスイスに関する質問をしているものと考えて they を選ぶ。d person は普通名詞なので無冠詞単数ではおかしい。people を普通名詞で扱うと「民族；国民」となるが、c の「特定された複

数の民族」を表すので、不適。

(2) **b**「料理それ自体が、日本では芸術作品だ。」

○ by oneself 「ひとりで」、for oneself 「独力で」、in oneself 「それ自体で」、of oneself 「ひとりでに」

(3) **b**「エマは大変優しい人だ。つまり彼女は親切そのものだ。」

○ all kindness = kindness itself 「大変親切な」

(4) **d**「うさぎの耳は猫の耳より長い。」

those = the ears である。that は単数名詞を繰り返す際に用いる。

Ex. The population of Tokyo is larger than that of Kyoto.

(5) **d**「私は1日おきにお風呂に入るが、兄〔弟〕もそうだ。」

時制に注意する。some other day は「またいつか、日を改めて」という意味で未来の表現。the other day は「先日」という意味で過去の表現。

○ every other day = every second day 「1日おきに」

B.

**解答・解説**

(1) another 「石油はあと100年もたないだろう。」

○ another ~ years 「さらにあと~年」

cf. Give me another three. = Give me three more.

(2) some 「天然痘はおよそ20年前に世界中で根絶された。」

some には「およそ」という意味がある。

Ex. I have some hundred books. (私はおよそ100冊の本を持っている。)

○ eradicate 「~を根絶する」

(3) The others 「ここが空いている唯一のホテルだ。他のホテルは全ていっぱいなんだ。」  
「残り全て」という場合には the others を用いる。

(4) some others 「この靴は好きではありません。他の靴を見せてもらえますか。」

単数形の物を「もう1つ見せてもらう」のは Show me another (one). でよいが、靴のように複数扱いの物を「さらに見せてもらう」場合には Show me some others. とする。この表現は、単数形の物をさらに複数見せてもらう際にも使うことができる。また、I don't like this pair of shoes. という場合には、Show me another (pair). でも Show me some others. でもよい。

(5) other, the other 「リリーとスーザンは、とても気が合っていて、いつでも相手の考えていることがわかった。」

each other は「お互い」、the other は「(2つのうちの)片方」となる。

○ be in tune with ~ 「~と波長(気)が合う」

(6) another, the other 「彼は娘に会いに駅に来たが、そこで見かけた女の子はどの子も彼の娘ではなかった。そのとき道の反対側にもう1人の女の子がいるのに気づいた。」

「駅で出会った数人の女の子」に加えて「さらにもう1人の女の子」という意味であるから another がよい。some は「ある~」という意味があるため間違いとは言えないが、anotherの方が適切である。

(7) another 「ポールは、すでに3杯食べているのに、さらにもう1杯のご飯を欲しがっている。」

3杯食べた後「さらに」とあるから another がよい。

(8) The other 「先日渋谷で偶然スミス教授に会った。」

the other day (先日) は過去時制と用い、some day (いつか) は未来時制と用いる。

C.

**解答・解説**

(1) d

either は、肯定文中で side, end, hand など1対になっている語を修飾する形容詞として用いられる場合「どちらの～も」の意味を表す。そのため on either side = on each side = on both sides となる。「側面に並べる」という意味の動詞 flank を用いて The road is flanked with cherry trees. ということもできる。

(2) d

'almost every + 単数形 = almost all + 複数形' となる。nearly (ほとんど) も virtually (大部分は) も almost とほぼ同じ意味になる。

**[3]**

**解答・解説**

(1) It is likely that the Internet will have a great effect on our lives.

○ It is likely that S V. 「SがVすることがありそうだ。」

(2) It takes a great deal of patience to face adversity.

○ It takes (O<sub>1</sub>) O<sub>2</sub> to do. 「(O<sub>1</sub>が) …するにはO<sub>2</sub>が必要だ」

(3) It will not be long before a computer emulates the human brain, producing various artificial senses.

○ It will not be long before S V. 「まもなくSはVするだろう」

S Vは時の副詞節であるから現在形で表す。

○ emulate 「～を真似る、～に匹敵する」

(4) It is said that it cost about 65 billion yen to construct Tokyo Sky Tree.

○ It is said that S V. 「S Vとされている。」

○ It cost (O<sub>1</sub>) O<sub>2</sub> to do 「…するのに (O<sub>1</sub>に) O<sub>2</sub> (=金額) がかかる」

(5) It makes no difference if you are rich or poor.

**別解** It doesn't make any difference if you are rich or poor.

○ make no difference 「重要でない」

○ it は形式主語で if 節が実質主語の形。

(6) It is not that I agree with every word you've just said.

○ (It is) not that S V. 「SがVというわけではない」

It is は省略されることもある。

#### 【4】

A.

全訳

単に、諸君が耳にする世論が非常にたくさんの人によって作りだされているものである、あるいはそのように思えるからといって、それに誤りはないのだと簡単に考えてはいけない。

B.

全訳

知識のある人々が重要で面白いと見なす本を、退屈だと感じるならば、自分自身に正直になり、問題はおそらく、本ではなく自分にあるのだということを認めなさい。今は退屈で難しいように思われる本が、もっと知的に成熟した時に、簡単に理解でき非常に楽しく読めるようになることがよくある。

C.

全訳

我々の宇宙は約40億年前に起こったすさまじい破裂や爆発によって形成されたものであり、第1の説は仮説を立てている。この爆発の結果、水素やヘリウムや固体の断片が飛び散って、我々の地球を含む恒星や惑星をつくったというのである。

D.

全訳

英語を習得することは、泳ぎや野球ができるようになるのに似ている。泳ぐことによって泳げるようになり、野球をすることによって野球ができるようになり、英語を話すことによって英語が話せるようになるのである。言語を自動的に、すなわち、いちいち考えないで用いる能力を身につけるといことは、習慣を身につける過程なのである。どんな種類の習慣であろうと、習慣を身につけるには、何度も実際にやってみなければならぬのである。

#### 【5】

解答

(1) ① d            ② d            ③ b            ④ a

(2) 「全訳」の下線部①参照。

(3) ⑤ laid          ⑥ made          ⑦ flung          ⑧ scared

(4) 真っ暗闇の中で目も鼻も口もないのっぺらぼうと出くわした経験をした後となつては、どんな明かりであれどんな人との触れ合いであれありがたいものだった。(72字)

(5) no eyes or nose or mouth

(6) (a) 「誤」      (b) 「誤」      (c) 「誤」      (d) 「正」      (e) 「誤」

解説

(1)

① on the other side of the road は場所を表す前置詞句で文の主語ではない。すると主語は the long and lofty walls であることがわかる。また、前の部分から時制は現在形とすべきである。

② 前の部分から、街灯や人力車がなかった時代の記述であるから、過去時制にすべきであ

ると分かる。would には過去の習慣を表す用法があることを知っていればこれを選ぶのは容易である。

◎ quarter には「四分の一」という意味以外に「場所」とか「地区」という意味がある。

◎ was ...ing, when SV で「…しようとしていた, とその時 S V」となる。

(2) Fearing that ~ は分詞構文。drown は「溺死させる」であるが, drown oneself の形で, ここでは「堀に身を投げる」という意味になることをつかむ。stop to do は「足を止めて…する; …するために立ち止まる」である (stop ...ing ではないことに注意)。in one's power 「自分の力が及ぶ範囲で」

(3)

◎ lay one's hand 「手を置く」 lay-laid-laid-laying

「横になる」 lie-lay-lain-lying との区別に注意。

◎ make for ~ 「~へと進む」

◎ fling 「~ (身など) を投げる」 fling-flung-flung と活用する。

◎ scare 「怖がらせる」 商人が「誰にも傷つけられていない」と言ったことに対して「では、脅されただけなのか」と答えている。

(4) “that experience” は、「若い女性だと思った人物が目も鼻も口もないのっぺらぼうであったことを知り, 暗闇の中を恐怖の中逃げてきた」という前の内容を指す。ここで注意すべきは, 下線部の “any light” と “any human companionship” という 2 つの主語である。つまり, 単に「のっぺらぼうと出会った」だけでは “any human companionship” という主語さえあれば十分だったであろう。もう一つの主語の “any light” つまり「どんな光でもありがたかった」という記述がある以上は, 道中ずっと真っ暗闇だった (“all was black and empty before him” 等) という事実もまたこの商人の恐怖を増幅しているのである。したがって, “that experience” の内容としては「真っ暗闇の中」「目も鼻も口もないのっぺらぼうと出くわした」という 2 つの事項を書くべきである。その結果「どんな明かりであれ」「どんな人との触れ合いであれ」彼にはありがたかったことになる。

(5) 「蕎麦屋の旦那もまたのっぺらぼうであった」というこの物語のオチをつかめばよい。

(6)

(a) 「誤」 “Before the era of street-lamps and jinrikishas” というのは「街灯や人力車が登場する時代より前」つまり「街灯も人力車もなかった時代」ということになる。

(b) 「誤」 “her hair was arranged” というのは「髪を結っていた」という意味である。

(c) 「誤」 “hiding her face from him with one of her long sleeves” “continued to moan and sob behind her sleeve” などからわかるように, 顔を隠していたのは片方の袖だけである。

(d) 「正」 “Up Kii-no-kuni-zaka he ran and ran ~” の記述より正しい。

(e) 「誤」蕎麦屋は商人の傷跡を見て “Anybody hurt you?” と言ったとまでは書いていない。

#### 全訳

東京の、赤坂の道に紀伊国坂という坂がある。それは紀伊の国の坂という意である。どうしてそれが紀伊の国の坂と呼ばれているのかは知らないが。この坂の片側には昔からの深くて大変広いお堀があり、高くて緑の土手が盛り上がり、屋敷の庭へと続いている。道の反対



側には皇居の長くて高い塀が伸びている。街灯や人力車がなかった時代には、この辺は夜暗くなると非常に寂しい場所だった。帰りが遅くなった歩行者たちは、日没後にひとりでこの紀伊国坂を登るよりは、むしろ何マイルも回り道をしたものであった。

これはすべて、この辺をよくうろついていた貉のためであった。

貉を見た最後の人物は、約三十年前に他界した京橋地区の老商人だった。以下は、彼は語った通りの物語である。

とある晩、遅い時間にその商人が紀伊国坂を急いで登っていると、堀の縁にたった一人かがんで、ひどく泣いている女に気が付いた。①身投げでもするつもりなのかと案じ、その商人は、自分ができる限りで助け、慰めてやろうと足をとどめた。その女は、華奢でしとやかな人に見え、身なりも綺麗に整っていて、髪も良家の若い令嬢かのように結ばれていた。「お女中」と商人は女に近寄って大きな声をかけた。「お女中、そんなふう泣いてはいけません。何をお困りなのか、言ってごらん下さい。もしお助けする方法でもあるならば、喜んでお助け致しますよ。」(男は本心からそう言っていた。というのは、これは非常に親切な人であったからだ。)けれどもその女は泣き続けた。その長い袖の片方で商人に顔を隠しながら。「お女中」と、再度その商人は出来る限り優しく言った。「どうかどうか、私の言葉を聞いてください！　ここは夜に若い令嬢などが来るような場所ではありません！　泣かないでください。ぜひともお願いします。どうやったら少しでもお助け出来るのか、それだけでもおっしゃってごらん下さい！」その女はゆっくりと立ち上がった。けれども商人には背中を向けたまま、袖で顔を隠して悲しい声を上げて泣き続けていた。商人はその手を軽く女の肩の上に置いて頼むように声をかけた。「お女中！　お女中！　お女中！　私の話を聞いてください。ちょっとだけで良いのです！　お女中！　お女中！」…するとそのお女中なるものは振り返った。そして袖を下へと降ろして、手で自分の顔を撫でた。すると目も鼻も口もない顔が見え、商人は悲鳴を上げて逃げ去った。

男は紀伊国坂を一目散に駆け上がった。目の前は真暗で何もなかった。後ろを振り返る勇氣もなく、走り続けると、ようやく一つの提灯が目に入ったが、それはあまりに遠くにあって螢の光のように見えた。男はそれに向かって進んでいった。その提灯は、道端に店を出していた移動型屋台の蕎麦屋の提灯に過ぎないと分かったが、どんな明かりであれ、どんな人との触れ合いであれ、そんな経験をした後では、ありがたいものだった。商人は蕎麦売りの足下に身を投げ出して叫んだ。「ああ！　ああ！！　ああ！！！」

「これ！　これ！」と、蕎麦屋はぞんざいに叫んだ。「これは、どうしたもんです？　誰かさんにでもやられたのかい？」

「いいえ、誰にもやられておりません。」と、商人は息を切らして言った。「ただ、ああ！　ああ！」

「ただ、脅かされただけというのかい？」と、蕎麦売りはそっけなく聞いた。「盗賊にでも？」

「盗賊じゃない。盗賊じゃない。」と怯えた男は息を切らしながら言った。「私は見たのです。女を見たのです。堀の縁で。そしてその女が私に見せたのです。ああ！　何を見せたかたなんて、とても言えやしません。」

「へえ！　その女が見せたものとは『こんな』ものでしたかい？」と叫んで蕎麦屋は自分の顔を撫でた。それと共に、蕎麦売りの顔はまるで卵ようになった。そして、同時に明か



りも消えてしまった。

**注**

- ℓ. 1 ◇ slope 「坂；傾斜」
- ℓ. 4 ◇ bank 「土手；岸」  
◇ rising up to ~ 「～まで上って；上り坂になって」
- ℓ. 5 ◇ lofty 「非常に高い；高尚な」  
◇ an imperial palace 「かつての東宮御所（現在の赤坂離宮）」  
◇ era 「時代」
- ℓ. 6 ◇ lonesome 「寂しい；人里離れた」  
◇ belated pedestrian 「帰りが遅くなった歩行者たち」
- ℓ. 10 ◇ as he told it 「彼が話した通り」 as は接続詞で様態を表す。
- ℓ. 12 ◇ perceive 「～を知覚する〔理解する〕」  
◇ crouch 「しゃがむ」  
◇ weep 「（涙を流して）しくしく泣く」 cry より堅い語で『涙を流す』ところに力点がある。  
cf. cry 「（声を上げて）泣く」元来『声を上げる』ところに力点があるが今ではそれほどでもない。  
sob 「泣きじゃくる；むせび泣く」weep や cry より哀れを誘うような泣き方を指す。  
wail 「鳴き声を出してわんわん泣く；泣きわめく」
- ℓ. 13 ◇ consolation 「慰め」 cf. console 「慰める」
- ℓ. 14 ◇ graceful 「優雅な；上品な；礼儀正しい」
- ℓ. 15 ◇ arrange 「並べる；整える；調停する；取り決める；手配する」  
本文章では『髪のを結う』という意味になる。  
◇ exclaim 「叫ぶ」名詞形は exclamation
- ℓ. 16 ◇ if there be any way to help you = if there is any way to help you  
この 'be' はいわゆる仮定法現在と言われる古い形式。
- ℓ. 20 ◇ implore 「～に懇願する」
- ℓ. 21 ◇ of help = helpful 「役にたつ；助けとなる」
- ℓ. 22 ◇ moan 「うめき声を出す；不平を言う」  
◇ behind her sleeve 「袖で顔を隠して」直訳は「袖の後ろで」。
- ℓ. 23 ◇ plead 「嘆願する；弁護する」
- ℓ. 24 ◇ turn round 「向き直る」
- ℓ. 25 ◇ stroke 「なでる」  
strike の過去形だと勘違いする者が多いので注意 (strike - struck - struck [stricken])  
strike 「打つ」の名詞形が stroke (打撃；脳卒中) である。stroke を動詞で用いると「なでる」である (stroke - stroked - stroked)。
- ℓ. 29 ◇ firefly 「螢」

◇ lantern 「提灯」

ℓ. 35 ◇ pant 「息を切らす；あえぐ」

ℓ. 36 ◇ query 「尋ねる；疑う」

ℓ. 37 ◇ gasp 「はっと息をのむ；喘ぎながら言う」

ℓ. 41 ◇ simultaneously 「同時に」 e.g. simultaneous translation 「同時翻訳」

## 【6】

### 解答・解説

(1) a 「彼の名前は知っているが、顔は知らない。」

○ know ~ by name 「~の名前は知っている」

(2) a 「私たちは急いだが、あと2分のところで乗り遅れた。」

○ by ~ 「~の分だけ」 e.g. escape by a hairbreadth (間一髪で助かる)

(3) d 「明日までにそのレポートを仕上げているだろう。」

○ by ~ (～までに) と till ~ (～までずっと) と区別する。

(4) c 「トムは教室から出て、運動場まで走っていった。」

○ out of ~ 「~の中から外へ」

(5) d 「我が校は今年、8時から始まる。」

○ 日本語では「8時から」と表現することもあるが、begin (始まる) 時点を表すには at を用いる。

(6) a 「私は双子の片方ともう片方を区別できない。」

○ tell A from B = distinguish A from B 「AをBと区別する」

(7) b 「(彼女の) 目の前で彼女のカバンが盗まれた。」

○ from は目的語として前置詞や副詞を取ることがある(二重前置詞とする文法書もある)。

Ex. The swallows have come from over the sea.

(そのツバメは海をわたってやってきた。)

## 【7】

### 解答・解説

(1) birds

「スティーブンはいつも一挙両得を考えてばかりいる。」

○ kill two birds with one stone 「一石二鳥」

(2) horses

「川を渡る途中で馬を取り替えるな → 計画の途中で方針を変えるな。」

リンカーン大統領が選挙を戦った際のスローガンとして有名。

(3) dogs

「これは私たちだけの秘密です。寝ている犬は寝かせておけばいい〔触らぬ神に祟りなし〕。」

(4) bull

「陶器屋の中の雄牛〔乱暴者〕のように振る舞うとこの部屋の子供たちは怖がってしまいます。」

(5) elephant

「白い象という語は、役に立たない厄介なもののことを言い、特に維持するのにお金がかかったり、処分するのが難しい物を指します。」

○ white elephant 「無用の長物」

(6) kiwi

「このフルーツは卵型の胴体を持つ飛べない鳥、キーウィという鳥にちなんで名付けられました。」

kiwi は元来、ニュージーランドに生息する飛べない鳥のこと。キウィフルーツはこの鳥の形に似ていることから名付けられた。

(7) lion

「男の子がわざわざライオンの巣に歩み行って女の子を夕食に誘うことは容易でない。」

lion's den は「ライオンの住処」という意味だが、転じて「非常に危険な場所」という意味を持つ。

(8) crow

「その博物館は、直線距離だと、ここから5キロ離れています。」

as the crow flies は「直線距離で言うと」という決まり文句。

(9) horse

「彼が太っているのは不思議でない。なぜなら馬のように大食いだからだ。」

○ eat like a horse 「大食いだ」

似たような表現に、drink like a fish (大酒飲みだ) というのがある。

## 【8】

### 解答

- (1) in      (2) by      (3) to      (4) for      (5) on  
(6) with    (7) over    (8) between    (9) at [in]    (10) from

### 解説

「～の」 = of という覚え方では解答できない。

- (1) in English で「英語で；英語を使った」。前置詞 in は「～の方法で [の]；～を使って [た]」の意。
- (2) a novel written by Hemingway という連想から、前置詞 by を入れる。
- (3) ‘運動の到達点’を示す前置詞 to が入る。
- (4) ‘用途’を表す前置詞 for が入る。
- (5) 前置詞 on は基本的には‘接触’を表し、「(専門的なことについて) ～に関して」という場合に用いる(専門であれば、その対象にピッタリ接触していると考えられるので)。about は基本的には‘周辺’を表すから、同じ「～に関して」でも専門的でない事柄にも用いられる。
- (6) 「赤い鼻を持った人」と考えて、having がシンボルの前置詞 with を用いる。
- (7) 「橋」は川を上から「覆っている」ので、前置詞 over を用いる。
- (8) 「2つのもの間」を表す前置詞は between。

- (9) 「丸の内」は比較的狭い地域なので、前置詞 at を用いるのが普通。ただし、「自分がそこに住んでいる」場合は、small place であっても in を用いる。
- (10) ‘出所’を表す前置詞は from。